

<農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例>

○集落営農組織を立ち上げ農業生産の継続を目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	宮城県 くりはらし かんなり やまなかつみした 栗原市 金成 山中堤下			
協定面積 8.8ha	田（100％）	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 183万円	個人配分			49 %
	共同取組活動 （ 51 % ）	水路・農道等維持管理費用		27 %
		ため池・周辺林地の下草刈り管理費用		14 %
		事務費・役員手当		10 %
協定参加者	農業者 12 人、その他 5 人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

地域農業の担い手不足や農家の高齢化などにより、農地の荒廃化が懸念されるなかで、集落の将来を考え、農用地の有効活用と農業経営の改善を図る必要があった。

このため、集落内で話し合っって協定を締結し、将来に渡り持続的な農業生産活動を実施していくこととした。

3. 取組の内容

耕作放棄地の発生を防止し、将来にわたって持続的な農業生産活動等を可能にするため農地・農道等の草刈り、水路の泥上げ等を共同作業により実施していく。

また、集落の農業生産活動をより効率的かつ活発化していくために集落営農組織を設立することとし、集落内 16 名により平成 18 年 11 月にソリマチ営農組合を設立した。



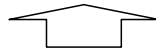
【水路の共同作業】



【共同作業による草刈】

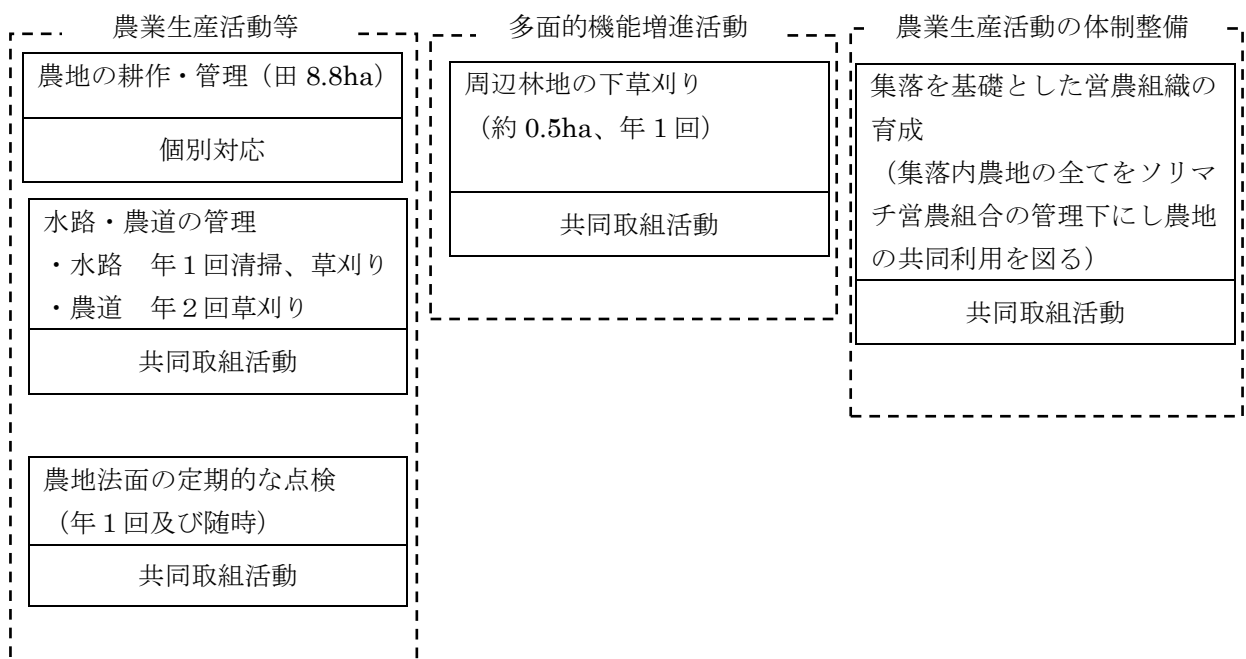
【集落の将来像】

○ 農地の集約化を実施し、集落ぐるみの農業生産活動の体制整備を充実するため、集落営農組織を中心に継続的な営農体制の整備を目指す。



【将来像を実現するための活動目標】

○ 集落営農組織を中心に継続的な営農体制の整備を目指すため、集落ぐるみの農業生産活動の体制整備を充実し、農地の集約化を実施していく。
○ 農業の継続が困難となった農地が生じた場合に備え、共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備（サポート体制）を維持していく。



4. 今後の課題等

協定活動を通じ、水路や農道も定期的に維持管理されることになり、これらの施設については、「集落の共通の財産である」という意識が各構成員の中で高まった。

しかし、集落内では農作業従事者の高齢化が進んでいることから、今後も更なる農作業の共同化を進めながら、集落の維持に繋げる活動を行っていききたい。

【第 2 期対策の主な成果】

○ H18 年 11 月、集落を基礎とした営農組織「ソリマチ営農組合」が設立。